

避難情報ととるべき行動

▶ 避難情報と「とるべき行動」

避難情報は災害の状況に応じて三宅町が発令します。普段から避難情報の種類と、とるべき行動について確認し、発令された場合には適切な行動をとってください。(内水氾濫による避難情報は発令しません。)

警戒レベル	三宅町からの情報 避難情報	発令時の状況	気象情報	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保	災害発生 又は切迫	氾濫特別警報 大雨特別警報	命の危険 直ちに安全確保! ● 命の危険が迫っています。身の安全を可能な限り確保する行動をとってください。 自宅の少しでも 近隣の少しでも 高い場所に移動 高い場所に移動 場所 に 移動
警戒レベル4までに必ず避難!				
4	避難指示	災害のおそれ高い	氾濫危険警報 大雨危険警報	危険な場所から全員避難 ● 安全な場所へ 立退き避難しましょう。 町が開設する 安全な親戚・避難場所へ 知人宅などへ 自宅の浸水しない 上階等へ 想定浸水高さ
3	高齢者等避難	災害のおそれあり	氾濫警報 大雨警報	危険な場所から高齢者等は避難 ● 高齢者や障がい者など、自ら避難することが困難な方や避難に時間を要する方は、家族や近隣の方などと連絡を取り合い、避難場所へ避難しましょう。 ● 高齢者等以外の方も、必要に応じて普段の行動を見合わせたり、危険を感じたら自主的に避難しましょう。 町が開設する 安全な親戚・避難場所へ 知人宅などへ 自宅の浸水しない 上階等へ
2		気象状況悪化	氾濫注意報 大雨注意報	自らの避難行動を確認 ● ハザードマップ等により、災害リスクや避難場所等や避難情報の把握手段の再確認など、自らの避難行動を確認してください。
1		今後気象状況悪化のおそれ	早期注意情報 (警報級の可能性)	災害への心構えを高める ● 防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高めてください。 ● 避難場所以外の避難先(安全な親戚・知人宅など)の調整や、屋内安全確保を行う場合は、水や食糧等の備蓄の確認を行ってください。

上記の気象情報の名称・区分は、令和8年5月下旬(予定)より新たに実施予定です。

▶ 風が強いとき、大雨のとき、どうすればいいのか

毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに対応しましょう。雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネット等で発表される気象庁からの注意報・警報・危険警報・特別警報や、町からの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき

室内では...

- 風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。
- 外側から板でふさいだり、内側から養生テープを×印に貼り、カーテンを引いておきましょう。

路上では...

- 看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。

海辺では...

- 海中への転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。
- 強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえづらくなりますので十分に注意しましょう。

大雨のとき

室内では...

- 豪雨の際は、床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。
- 地下には避難しないようにしましょう。

車の運転中は...

- 豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移しましょう。
- 浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

河原では...

- 急な増水や土砂災害の危険があるので、河川敷から堤防の外に移動しましょう。
- 今いる場所で雨が降っていないとしても、サイレンなどの警報が聞こえたらすぐに避難してください。

▶ 近年の雨の傾向に要注意!!

近年、いわゆるゲリラ豪雨といわれる雨が多発しております。グラフは全国で発生した時間雨量80mmを超える雨の年間発生回数を示したものです。想定を超えるような猛烈な雨が増加傾向にあることがわかり、大規模な浸水被害が発生するおそれがあります。

